

「日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード」

神谷 直亮

日本ケーブルテレビ連盟が主催し、総務省が後援した「日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード～コンテンツフェスティバル～」の贈賞式が、9月6日に「iTSCOM スタジオ&ホール 二子玉川ライズ」(東京・世田谷区)で開催された。また、翌日の7日には、「コンテンツスタジアム」と名付けた入賞作品をめぐる審査員と受賞者による熱心な意見交換会が行われ、スタジオムと化した会場が大いに盛り上がった。さらに、筆者は参加できなかったが、初日の夜に「制作者同士で収録の知恵と工夫を共有しましょう!」というテーマで江夏正晃(marimoRECORDS)、金森宏仁(Over4K)の両氏を交えたナイトセッションが行われた。

「私達の映像を地域の力に」をテーマに掲げた第44回の番組アワードのプログラムは、コンペティション部門、コミュニティ部門、4K部門、新人賞部門で構成されていた。また、今回初めて「NHKワールド・ジャパン賞」が設けられた。

まず、全国で最も優れた映像コンテンツを目指して競うコンペティション部門には、全部で56作品の応募があったという。今回、これらの中から受賞作品として紹介されたのは、「激流と闘う乙女たち～栄光への軌跡～」(制作:ケーブルテレビ徳島/池田ケーブルネットワーク)、「旭山動物園のあるまち」(制作:旭川ケーブルテレビ)、「じ

いちゃんの棚田～密乗院～」(制作:大分ケーブルテレコム)、もし、西三河で大地震が起これば、今からでも間に合う備え」(制作:キャッチネットワーク)、「今須杉～復活への挑戦～」(制作:大垣ケーブルテレビ)、「検証! 屋島源平合戦～源義経軍の足跡を追う～」など9作品であった。

次いで、地域に密着したケーブルテレビ局ならではの映像コンテンツを競うコミュニティ部門には、最も多い108を数える作品が集まった。これらの中から厳選されて受賞作に選ばれたのは、「かえる先生のいきもの交遊録 総集編」(制作:長崎ケーブルメディア)、「完全アポなし 撮って出しTV 見聞(みき)まま」(制作:伊豆急ケーブルネットワーク)、「ころころな人」(制作:長野県豊丘村役場総務課広報係)、「ババコン～世代をこえたファッションショー～」(制作:出雲ケーブルビジョン)、「私の町の防災2018～街ごとに見る防災のカタチ～」(制作:ジェイコム東京 南エリア局)、「言葉をひろう 花咲徳栄高校 岩井隆監督」(制作:ジェイコム北関東)など8作品である。

さらに、今年で第3回目となる4K部門には、全部で29作品の応募があった。これらの中から受賞作品に選ばれたのは、「URAKATA/裏方のプライド」(制作:ケーブルテレビ富山)、「とくしまドローン紀

行 そらたび」(制作:ケーブルテレビ徳島)、「ニッポンの新・伝統工芸 柘」(制作:大垣ケーブルテレビ)、「2017 スラックラインワールドカップジャパン、フルコンボ4K生中継」(制作:須高ケーブルテレビ)、「モト冬樹のまちかど呑み散歩」(制作:イツ・コミュニケーションズ)の5作品である。

今年12月1日から新4K8K衛星放送が始まることもあり、4K大賞の行方に特に注目していたら、「URAKATA/裏方のプライド」が選ばれた。ソニーのメモリーカム「PXW-FS7」を駆使して「黙々と仕事に打ち込む3人の裏方を映像としてとらえるだけでなく、登場人物の内面までほうふつとさせる4Kを超える作品に仕上がっている」というのが高い評価を受けたポイントである。

DJI製の4Kドローン(Phantom 4 ProとInspire 2)を使って撮影したという「とくしまドローン紀行 そらたび」は、優秀賞を受賞したが「東京夜景」などすでに出回っているこの分野の作品を超えるものではなかったようだ。

「2017 スラックラインワールドカップジャパン」も優秀賞を受賞した。9月17日、18日に長野県小布施町で開催されたアジア初の大会を、4機種、8台の4Kカメラを駆使して撮影し、ケーブル4K専門チャンネルで生中継したものである。2日間にわたる15時間の完全生中継という記録を残し、地域から全国へ発信できるというポテンシャルを総勢50人のスタッフでアピールした画期的な番組と言える。

今回から始まった新人賞部門には、40作品の応募があった。これらの中から受賞作品に選ばれたのは、「自分サイズのママ起業」(制作:ひまわりネットワーク)、「空き家を見つめて～岡谷市の空き家対策～」(制作:長野県エルシービー)、「まつろわぬ者～隼人伝～」(制作:宮崎県のBTV)、「ミラクルアスリート」(制作:広域高速ネット二九六)など5作品で、「自分サイズのマ



写真1 今回、グランプリ総務大臣賞を受賞したのは、「激流と闘う乙女たち～栄光への軌跡」であった。



写真2 グランプリ総務大臣賞のトロフィーを手にしたケーブルテレビ徳島の宮本あゆみ氏(向かって右)と池田ケーブルネットワークの辺見知佳氏。

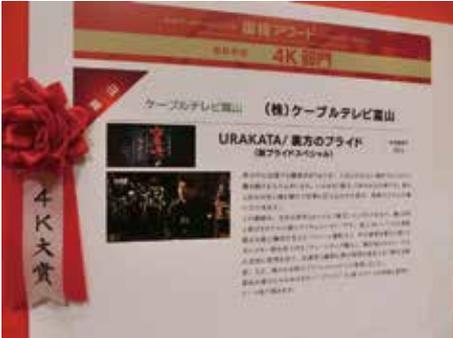


写真3 4K大賞には、ケーブルテレビ富山が制作した「URAKATA/裏方のプライド」が選ばれた。



写真4 4K部門の入賞者と審査委員が記念撮影に臨んだ。真ん中が4K大賞を受賞したケーブルテレビ富山の代表。



写真5 今回初めて設けられた「NHK World Japan賞」には、「じいちゃんの棚田〜密乗院〜」が選ばれた。

マ起業」が最優秀新人賞に輝いた。この作品に関しては、「働くママをサポートする地元の起業塾で出会った4人のママの奮闘ぶりが高く評価された」という。

また、今回、NHK国際放送局より意表を突く「NHKワールド・ジャパン賞」の発表があり、上述した作品の中から「じいちゃんの棚田〜密乗院〜」が選ばれた。

さて、気になるグランプリ、準グランプリであるが、今回最も注目を集めたグランプリ総務大臣賞の栄誉に輝いたのは、コンペティション部門の「激流と闘う乙女たち〜栄光への軌跡〜」（ケーブルテレビ徳島と池田ケーブルネットワークの共同制作）であった。

トロフィーを手にしたケーブルテレビ徳島の宮本あゆみ番組制作部主任は、「賞をもらったのは、世界大会を成功裏に運営した徳島県三好市の皆さんと、頑張って世界一の栄冠を勝ち取ったザ・リバーフェイス・チームのメンバーのおかげであり感謝したい」と述べた。また、三好市池田町を拠点にする池田ケーブルネットワークの辺見知佳代表は、「舞台になった吉野川は池田町と切っても切れない深い関係にある。今回のラフティング世界大会で地域が盛り上がり、グランプリをいただいたことでさらに池田町を元気にできるのがうれしい」と喜びを語った。

準グランプリ受賞作品は、昨年グランプリを獲得した実力派の長崎ケーブルメディア

アが制作した「かえる先生のいきもの交遊録」であった。いろいろな長崎のいきものを紹介する番組として同局が7年間放送してきた努力の結晶と言える総集編である。音好宏審査委員長は、「グランプリの選定には大変苦労した。応募作品全体のクオリティが今回非常にアップしたからである」と述べていた。

なお、コンペティション部門の優秀賞は、「旭山動物園のあるまち」と「じいちゃんの棚田」に、審査員特別賞は、「もし、西三河で大地震が起こったら」に授与された。失念していたが、今年、旭山動物園は開園50周年とのことで、これまでの運営記録を地域メディアとして振り返り、インタビューも交えて制作したのが「旭山動物園のあるまち」である。

一方、コミュニティ部門の優秀賞には、「ころころな人」と「完全アポなし撮って出しTV」が、審査員特別賞には、「私の町の防災2018」が選ばれた。「ころころな人」というタイトルの作品は、女性の地域おこし協力隊員が、村への思いにあふれ新しいことにチャレンジしている人々を紹介しながらその苦労や喜びを巧みに発掘している点が評価されたものだ。

最後に、グランプリを受賞した「激流と闘う乙女たち〜栄光への軌跡〜」の上映が50分間にわたり行われ、視聴する機会に恵まれた。

過去4年間のグランプリ受賞作品は、第40回「終戦前夜の悲劇」、第41回「学徒報国隊」、第42回「満州 富士見分村〜戦後70年の証言〜」、第43回「ながさき原爆記録」というやや暗いテーマであったので、今回はどうなるのか非常に気にしていたが、吉野川（日本3大暴れ川）の激流に挑戦するアクション満載で笑顔がこぼれ涙が流れる若い女性たちのほのぼのとした物語の作品が授賞して正直なところほっとした。ストーリーは、ラフトと呼ばれるゴムボートを漕って激流を下るウオータースポーツに魅せられて日本各地から徳島に移住してきた8人の若い女性が、地元の応援団に支えられて練習に励み、世界一の栄冠を勝ち取るまで涙ぐましい日常を追ったものだ。具体的には、2017年10月に三好市で開催されたラフティング世界選手権の日本代表チーム「ザ・リバーフェイス」の8人の乙女とサポーターたちの涙ぐましい挑戦ぶりを活写したもので、世界で勝ち抜く強さの秘密を浮き彫りにした傑作と言える。これに刺激されて、地元の8人の女子がユースチームを結成して奮闘する姿を並行的に捉えていたのも良かった。22カ国、71チームによる国際大会なので、海外の選手たちの活躍ぶりも見応えがあった。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト